

シグマ研究委員会核データ専門部会
ガンマー線生成核データW.G. 第2回会合議事録

日 時 昭和54年6月14日(木) 13:30 ~ 17:30
場 所 原研本部 第35会議室
出席者 浅見哲夫, 五十嵐信一, 水本元治(原研), 川合将義, 吉田 正(NAIG),
河北孝司(MAPI), 播磨良子, 井頭政之, 北沢日出男(東工大)

配布資料

- (1) 2次ガンマー線生成断面積評価対象核種の選定(案)
- (2) ENDF/B-IV フォーマットに関する document の photon production の部分の抜粋
- (3) J.K. Dickens, Cross Section for the Production of Low Energy Photons, Proc. of Washington Conf., HB10

議 事

- (1) 前回議事録の確認を行なった。
- (2) 前回に引続いて仕事のスコープについて議論が出された。
 - keV 領域中性子に対するガンマー線生成断面積の評価を行なう場合、遮蔽計算では、基底状態附近に遷移する強い離散ガンマー線が重要であること、ガンマー線発熱計算では、エネルギー保存則によって低エネルギーガンマー線が計算に含まれることを考慮に入れる。
 - 高速炉設計におけりガンマー線発熱の重要性を考慮し、keV 領域の中性子に対するガンマー線生成断面積の評価に対しても十分な power を投入すべきだ。
 - 2次ガンマー線生成断面積評価対象核種のリスト(案)が提出され、昭和54年度の作業の対象となる核種の選択が行なわれ、作業分担が次のように決定された。

対象とする核種

核分裂性核種	^{235}U , ^{238}U
重 核	Pb, Nd, $^{95,96}\text{Mo}$

中重核	Fe
軽核	Na, Al

作業分担

^{235}U , ^{238}U , Pb	川合, 吉田, 河北
Nd, $^{95,96}\text{Mo}$	水本, 浅見(哲), 中川, 五十嵐
Fe, Na, Al	山越, 井頭, 播磨, 北沢

(3) 計算コードについて議論が出された。この問題に関しては次回に引続いて討論を行なう。

DUCAL は東工大で使用を試みる。